

柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会 第7回会議 会議録

開催年月日	平成27年10月20日（火）	
開催場所	柏原市教育委員会教育委員会室	
開催時間	午後7時30分	
出席委員 （順不同）	島 会長 茨木 委員 今水 委員 小川 委員	水原 委員 興梠 委員 平田 委員 浦上 委員
事務局	吉原教育長 蛇草教育監 松田学務課長 浅田学務課主査	尾野教育部長 中野次長兼教育総務課長 野間指導課長
傍聴者	なし	
議事案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5回、第6回審議会議事録の確認と承認 ・ 審議事項について 柏原中学校区の適正配置について 	

【事務局】 本日は、公私ご多忙の中、ご出席いただき、ありがとうございます。只今より、第7回柏原市小・中学校適正規模・適正配置審議会を開催いたします。

本日の、司会をさせていただきます、学務課の浅田でございます。よろしく願いいたします。

会議に入る前に、資料の確認をいたします。

【事務局】 資料の確認と説明をさせていただきます。

事前に郵送させていただきましたのは、第6回の議事録、本日の次第、そして補助資料でございます。また、資料 N0.26 としまして「柏原市立小・中学校の校区表」、そして、10月30日（金）に予定されております視察の実施要項でございます。行程、簡単な内容説明と当日参加者の最終確認をさせていただきます。

また、中間答申につきましては、この後、報告させていただきます。

机中には、新たな資料を置いております。これは、資料 N0.25 「校舎配置図」の追加資料ですので、以前お配りしました資料 N0.25 に続けて付け加えをお願いいたします。

また、資料 N0.27「柏原中学校区と堅上中学校区の地図」も用意しております。

以上でございます。何かご質問ございますでしょうか。

【事務局】 続きまして、中間答申について、事務局より報告します。

【事務局】 失礼します。前回の審議会の内容を受けまして、文言の修正、および、「小中一貫教育を推進する観点からの市立小・中学校の適正規模・適正配置のありかた」について追記した中間答申(案)を事務局で作成しました。それを、島会長に見ていただき、中間答申として完成したものが、お手元にあります中間答申でございます。

この中間答申は、10月6日(火)に島会長から吉原教育長に手交及び説明をしていただきました。

島会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、毎回、丁寧なご審議をしていただき、ありがとうございました。

【事務局】 続きまして、議事に移りたいと思います。島会長、よろしく願いいたします。

【会長】 それでは、まず、第5回、第6回審議会議事録について確認と訂正ですが、ご覧になられて、なにか訂正、追加等ございましたでしょうか。

【委員】 ありません。

【会長】 原案通りご承認いただいたものとします。

【会長】 審議事項に移らせていただきます。1つ目は柏原中学校区の適正配置について、2つ目は堅上中学校区の適正配置についてです。

まずは、柏原中学校区の適正配置について審議に入りたいと思います。事務局より説明願います。

【事務局】 補助資料をご覧ください。これからは、各中学校について、具体的な適正配置の方向性をご審議していただくこととなります。流れとしましては、まず、これまでご審議していただきました、「市立小・中学校の学校規模・学校配置の適正化について検討する際の視点」をもとに、中学校区の現状と課題をあげております。

次に、現状と課題をもとに、今後の適正配置に関する方策の事務局案をたたき台としてお示ししておりますので、ご審議をよろしく願います。

早速ではございますが、(1) 柏原中学校区の適正配置について、まず、①現状と課題についてです。

- 学校規模**・柏原中学校の生徒数は減少傾向にある。学級数も減少傾向で平成39年度には9学級になる見込みである。今後も生徒数の減少が予想されることから、今後9学級を下回り小規模校となる可能性もある。
- ・柏原小学校の児童数は減少傾向であるが、平成33年度で15学級が見込まれ、適正規模校である。
 - ・柏原東小学校の児童数も、平成14年度からは緩やかな増減を繰り返しながら少しずつ減少している。学級数も平成28年度には11学級、平成31年度からは12学級となる見込みであり、小規模校と適正規模校の境にある。

- 通学条件**・通学の道のりは、最長で小学校で1.6km、中学校で1.8kmであり、急な傾斜もないため、児童生徒の負担にならない。
- ・柏原小学校区は、渋滞の抜け道に住宅街が利用されることが多いことから、過去に児童の死亡事故が発生している。また、国道25号線やJR大和路線が通り、十分な安全対策が必要である。

- 通学区域**・柏原東小学校は、通学区域が南北に細長い。
- ・柏原東小学校区内では、近鉄大阪線により、大泉は堅下小学校区と分断されている。同じく太平寺は、堅下南小学校区と分断されている。
 - ・JR大和路線により、上市は、柏原小学校区と柏原東小学校区に分断されている。
 - ・法善寺1丁目は柏原東小学校区と堅下北小学校区に複雑に区切られている。

- 歴史的経緯**・柏原中学校は昭和23年、柏原町立中学校として創立、柏原小学校は明治5年、柏原郷学校として創立、柏原東小学校は昭和28年に柏原小学校が分離して柏原町立柏原東小学校として創立された歴史のある学校である。

- 耐震化**・柏原中学校校舎は建て替え工事が必要。柏原小学校と柏原東小学校は、一部の校舎に耐震化が必要。

- 防災施設**・柏原中学校は、柏原駅に近く、広いグラウンドがある。また、柏原中学校区で唯一大和川浸水被害に遭わない指定避難場所である。
- ・柏原小学校は、本郷・大正地区で柏原駅付近にある指定避難場所である。
 - ・柏原東小学校は、他の校区である堅下地区で土砂災害があった場合、重要な拠点と成り得る指定避難場所である。堅下駅・柏原駅に近い。

【事務局】 つづきまして、②今後の適正配置についての方策でございます。

- ・学校規模から考えると、将来的に柏原中学校と柏原東小学校は小規模校と

なる見込みである。

- ・柏原東小学校を適正規模にするために、通学区域の見直しが考えられるが、近鉄大阪線や近鉄道明寺線、J R大和路線で区切られているため容易に見直しは難しいと考えられる。特に太平寺地区は堅下南小学校区であり、見直して柏原東小学校区に組み入れた場合、ますます堅下南小学校の小規模校化が進む可能性が高くなる。
- ・次に、比較的敷地面積が広い柏原小学校に柏原東小学校を統合する方法が考えられる。統合した場合の学校規模は、平成32年度で児童数765名、学級数22学級であり、適正規模である。
- ・柏原中学校区は、従来から2小1中型小中一貫教育に取り組んでいる。今後さらに小中一貫教育を推進するためには、施設一体型小中一貫教育校の設置を検討することが必要である。
- ・また、柏原中学校校舎は建て替え工事が必要であり、柏原小学校と柏原東小学校は、一部の校舎に耐震化が必要であることから、施設一体型小中一貫校の設置を検討する意義は大きいと思われる。
- ・市の施策として、歴史ある3小中学校を先進的な施設一体型小中一貫教育校として設置することは、今後の小中一貫教育推進の大きな力となる。
- ・新たに施設一体型小中一貫教育校を柏原中学校区に創設すると仮定すると、平成32年度には児童生徒数約1116名、学級数32学級と予想されるが、その内訳をみると小学校22学級、中学校10学級となる。小学校、中学校共に適正規模であるので、施設一体型小中一貫教育校としては、適正な規模であると考えられる。
- ・柏原中学校区で施設一体型小中一貫教育校の土地を新たに確保することは難しいと考えられるので、施設規模や通学条件等から柏原中学校の敷地に建設するのが現実的と考える。
- ・通学区域は、基本的に変更しないが、隣接学校の適正規模化に有効な場合は、通学区域の見直しや指定校変更の許可区域の設定などを検討することも必要である。(例：柏原東小学校区の北端を堅下北小学校区へ、南端を堅下南小学校区へ)
- ・また、施設一体型小中一貫教育校を設置した場合、通学距離が長くなる地域への配慮の一つとして、通学区域の見直しも検討に入れる必要がある。

以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

【会長】 まず、1番目の現状と課題について入りたいと思います。全部で6項目について提案いただいておりますが、ご意見なりご質問なり、順不同でお願いいたします。

【委員】 防災施設のなかで、柏原小学校は、本郷・大正地区と書いてありますが、今町の半分、古町は全て、上市の一部も地域となっていますので、書き足

しておいてください。

- 【会 長】 今ご指摘があった部分について、確認の上、訂正願います。
現状と課題が一緒に書かれているが、課題の部分だけ抜き出すとどこの部分になるのか確認したいです。
- 【事 務 局】 ・学校規模では、柏原中学校と柏原東小学校が小規模校になる可能性
・通学条件では、十分な安全対策が必要
・耐震化では、柏原中学校校舎は建て替えが必要・柏原小学校と柏原東小学校は、一部の校舎に耐震化が必要
でございます。
- 【会 長】 柏原東小学校は平成30年度までは11学級、平成31年度からは12学級となる見込みとありますが、もう少し先はどうなるかわかりますか。
- 【事 務 局】 小学校は平成33年度、中学校は平成39年度までしか用意できておりません。
- 【会 長】 市の人口推計の資料はありませんか。
- 【事 務 局】 地区ごとの推計は出ていますが、校区ごとにはありません。
- 【会 長】 直接の根拠にならなくても、市全体の人口推計から、校区ごとの人口推計を導く根拠にはできます。
- 【会 長】 防災施設について、市の予想において「浸水が予測されにくい」や「浸水被害に合わない」と予測される」などの表現がよいでしょう。
また、柏原小学校は「指定避難所」で柏原東小学校は「重要な拠点と成り得る指定避難所」とありますが、なぜこのような差があるのでしょうか。
- 【委 員】 堅下地区は、土砂災害の際に学校が避難所にならないから、柏原東小学校に頼るということではないのでしょうか。
- 【会 長】 「他校区の被害住民の受け入れ拠点ともなる。」と書くとわかりやすいと思います。
- 【会 長】 それでは、「②今後の適正配置についての方策」に移らせてもらいたいと思います。
- 【委 員】 全体を読ませていただくと、柏原中学校に小中一貫校をつくったらよい

のでは、ということが書かれているという解釈でよいのでしょうか。

【事務局】 柏原東小学校の適正規模を考えると、まず2小学校の統合が考えられます。また、小中一貫教育の推進・建て替え耐震化という視点からは、施設一体型小中一貫教育校の設置も検討してはどうかという内容です。

【委員】 将来的に人が減ってくるので、施設一体型の小中一貫校を柏原中学校につくったらどうかということですね。

【会長】 学校規模から考えると、将来的に柏原東小学校と柏原中学校は小規模校となることが予測されるので、適正規模にする方策が必要です。
学校を適正規模にする方策は、これまでに議論なされてきたように2つあり、「通学区域の変更」と「学校統合」です。
柏原東小学校においては、他校区の通学地域を追加するという方策は、通学条件の観点や他校の小規模化が進むという点から困難です。
よって、2つの小学校を1つに統合することが現実的です。
次に、柏原中学校においては、生徒数は徐々に減少するとはいえ、適正規模を推移しています。それよりも差し迫った問題として耐震化の工事が必要であります。
小学校は統合し中学校は耐震化する、というように別々に解決する方策も考えられますが、これまで柏原市は小中一貫教育に取り組んできたという流れがあるので、3つの学校を1つにしたら小規模も解決するし、耐震化も解決するし、小中一貫教育でこれまで蓄積してきた財産もつかうことができるのでよいではないでしょうか。

とまとめたらわかりやすいのではないのでしょうか。

さらに、施設を1つにすることでは中学生の数は増えないが、中学生と小学生が同じ空間で勉強するので、子ども集団としては増えるので、単独よりはいい教育環境が望めると思います。

【委員】 義務教育学校みたいな9年通した学校になった場合は、どれくらいの人数で適正なのかの尺度が変わります。あくまでも小学校と中学校を切り離して考えているのか、施設一体型の9年間の学校ということで考えているのかどちらでしょう。

また、施設一体型にしても、橋で挟んで別棟という場合もあるし、同じ校舎に1年生から9年生までが入っている場合もあると思います。

文科省の方向転換も含んだ上でその辺りに取り組んでいかないといけないと思います。

【委員】 課題についてはどのように解決しますか。

- 【事務局】 学校規模については、統合という形で解決できます。
耐震化については、一体型の校舎の設置で解決できます。
通学条件については、具体的には方策は用意できていませんが、十分な安全対策がより一層必要であると認識しています。
- 【委員】 一般の人から聞くと、みなさん課題のところを気にされています。具体的な解決策を考えていかなければいけません。
「適正配置なんかいない。」と考えている人もいるので、「最善の対策はこれだ。」と言えないといけません。
そのためには課題に対しての考え方もはっきりしておいて欲しいです。
- 【事務局】 踏切に関しては、JRの下を潜るアンダーパスが、遅くとも平成33年には整備されるという話もございます。
しかし、個別の対応は難しいところがあります。
- 【委員】 この審議会でどこまで話すのか、深さの問題があります。安全対策の課題はありますけれど、施設の話まですると解決が難しいと思います。
- 【事務局】 安全対策を徹底するためには警察側や地域の安全見まもり隊の方の努力が必要であり、それは教育委員会ではできないことでもあります。
また、中学校は校区変更しないと小規模化からは脱却できないです。将来的な課題としては避けて通れないです。
しかし、中間答申でここまで条件的なものは整理していただいているので、ポイントをしばって考えたいと思います。
- 【会長】 安全確保の問題としては、現状でも事故が起こっているのです。校舎を新しい所にもっていくとすると、緻密に通学経路を想定して、教育委員会の責任でもって整理しないといけません。
しかし、それをこの審議会でするわけにはいかないので、通学上の安全をしっかりと確保してくださいよ、と審議会の答申の中に入れておくのがよいでしょう。
防災上の観点としては、防災拠点について考えるのは別の部局ですが、教育委員会として学校が防災拠点になりうることは考えておかなければならないでしょう。
どの辺りまで具体的に書けるかも検討しなければならないでしょう。
なお、将来推計については、市によっては平成40年・平成50年にはどうなるのか、ということも考えています。
このまま人口減になり、児童生徒の数も減少していった場合、中学校の統合も検討する時期がくる可能性があります。
その際に、自治組織・子ども会などがどうなっていくのかも考える必要

があります。

【委員】 祭りは、柏原小学校区と柏原東小学校区で、場所は違うが日にちは同じです。

【委員】 上市の祭りは、今年は校区を越えて開催しました。

【委員】 避難場所も、同じ町内の隣同士でも逃げる場所が違います。

【事務局】 将来的には避難所の見直しも必要です。
業者からのデータで、柏原市の将来人口は、2040年に55381名、5歳から14歳の人口が3483名、柏原中学校区の小学生は455名、中学生は234名という数字が出ています。

【会長】 現在と比べてどうでしょうか。

【事務局】 現在、5歳から14歳の人口は6081名。
柏原小学校493名、柏原東小学校297名、柏原中学校409名です。

【会長】 一般的に、統合となるとどちらかの学校に動くという事になりますが、柏原中学校区の場合は、新しいところに移るという事で、今までにとらわれずに新しい文化をつくりやすいでしょう。

【委員】 他の中学校区に比べたら、柏原中学校区は近い場所にあり平坦です。
保護者や地域からは、不安の声はありますが、不満の声は少ないと思います。

【委員】 教職員にとっては、職員室は1つの方が良いと聞きます。

【事務局】 一緒になることによって、お互いの理解や協力が得られます。

【会長】 新しいものを生み出すので、いろいろな意見を取り入れ、良いものができればいいと思います。そういうものになりうる答申にしたいです。
事務局の方で、視察も考えていただいています。

【会長】 堅上中学校区の適正配置についてですが、時間がおしていますので、事務局からは提案だけで、よろしいでしょうか。

【事務局】 今日の話を受けて、もう一度堅上中学校区についても整理した方がよいと思いますので、次回にさせていただいてもよいでしょうか。

【会 長】 資料のお目通しだけ願います。
議事については以上でよろしいでしょうか。

【委 員】 はい。

【会 長】 ありがとうございます。
では、事務局より視察についての案の説明があります。

【事 務 局】 日時は平成27年10月30日（金）午前8時15分集合出発予定。
場所は京都で、施設分離型の東山泉小中学校（平成26年開校）と施設
一体型の凌風学園凌風小中学校（平成24年開校）です。
交通手段は、柏原市マイクロバス。昼食代は自費負担。
帰庁予定は午後5時15分です。

【事 務 局】 それでは次回の日程についてご説明します。

【事 務 局】 次回日程について、第8回は11月10日（火）19時30分から教育委
員会室でおこないます。

【事 務 局】 以上で第7回柏原市立小・中学校適正規模・適正配置審議会を終了しま
す。
ありがとうございました。